

## カラウパパ国立歴史公園パンフレット

カラウパパ国立歴史公園/ハワイ

1835 年

カウアイ島カロアで住んでいたハワイアン女性であるカムリ (kamuli) に、ハンセン病が確認された。

1838 年

1 月 23 日、バーバラ・クープ（後にマザー・マリアンヌ・クープ）が、ドイツのヘッペンハイムで生まれた。彼女と彼女の両親は、1840 年に合衆国に引っ越した。

1840 年

1 月 3 日、ヨセフ・デ・ブーステル（後にダミアン神父として知られる）が、ベルギーのトレムローで生まれる。

1843 年

4 月 27 日、Ira B. ダットン（後にブラザー・ジョゼフ・ダットンとして知られる）が、バーモント州ストーで生まれる。

1850 年

ハワイの最初の保健局は主にコレラ問題を取り扱うために設立されたが、徐々にハンセン病の審議に携わっていった。

1864 年

3 月 19 日、ヨセフ・デ・ブーステルがホノルルに到着した。彼はホノルルのカテドラルオブアワーレディオブピース（全米のカテドラルの中で最も古い建物）で叙階（司祭になる儀式）した。その直後、彼はハワイ島のプナに送られる。1865 年 7 月、彼は、その後の 8 年を過ごすことになったコハラとハマクア地区に異動になった。

1865 年

1 月 3 日、カメハメハ 5 世が、“ハンセン病の蔓延を防止するための法律”に、

署名し法律として成立した。この法律は、ハンセン病患者を隔離する目的のための土地の分離を許可すものである。11月13日、その病気に罹った疑いのある軽症例の治療とモロカイ島の居住地（セツルメント）に“出航”を待っている人々のために、ホノルルの近郊にカリヒ病院が開設された。

1866 年

1月6日、モロカイ島カラワオのハンセン病患者居住地（セツルメント）への患者の初めての“出航”が行われた。この最初のグループは、9人の男性と3人の女性により構成された。

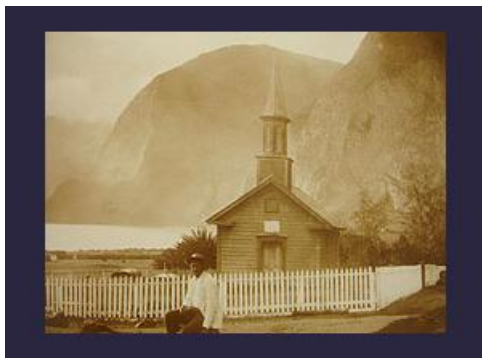
12月23日、35人の人々がシロアマの集会を組織するために一緒に集められ、カラワオで最初の教会を設立した。

1871 年

シロアマ，“チャーチ・オブ・フィーリングスプリング”が開かれた。

1872 年

ブラザー・ビクトリン・ベルトランは、ホノルルで木製のチャペルを作り、それをカラワオに移送した。それは5月30日に神の祝福を受けた。セント・フィロメナに捧げられた。この教会はのちにダミアンによって拡張された。そして“ダミアン教会”として一般には知られている。



1873 年

2月28日、32歳のノルウェー人医師ゲルハルト・アルマウエル・ハンセンがらい菌を発見した。この発見は、ハンセン病が細菌によって引き起こされること、それゆえ、遺伝病というよりむしろ伝染病であることを証明した。

5月10日、33歳のダミアン神父がカラウパパに到着した。

さまざまな努力が“逮捕する”ためになされ、ハンセン病のすべての患者が

隔離された。

1875 年

ホノルルのカリヒ病院が閉鎖された。

1881 年

カカアコブランチ病院は、ハンセン病患者の治療のためにホノルルに開設された。

1883 年

11 月 8 日、マザーマリアンヌコープの指導のもとに、カカアコブランチ病院で働くために、聖フランシスの 6 人のシスターがホノルルに到着した。

1885 年

ダミアン神父は、公式にハンセン病に罹患していると診断され、そのニュースが公になった。

11 月 9 日、セツルメントで両親の間に生まれた子供たちを世話するために、ホノルルにカピオラニ・ホームがオープンした。

1886 年

7 月 29 日、ヨセフ・ダットンがセツルメントに到着した。

ダミアンは彼を歓迎し、彼を“ブラザー”と呼んだ。

1886 年-1894 年

カラワオの少年のためのボードウイン・ホームの進展。1886 年に、ダミアン神父は少年のための小さなホームを設立し、彼らをダミアンの家を取り囲む小さな小屋に住ませた。数年で少年らの数が増加し、二つの大きな建物が建てられた。次の数年でさらに建物が建築され、1894 年までにホームは 29 の建物を有した。それは、ホームの拡張にお金を寄付したマウイ島のヘンリー・P・ボードウインにちなんで名付けられた。

1888 年

11 月 14 日、マザーマリアンヌ、シスター・レオポルディナそしてシスター・ヴィンセントがセツルメントに到着する。

少女のためのビショップホームは彼らの管理の下、カラウパパに設立された。

カカアコブランチ病院は閉鎖された。

1889 年

4 月 15 日, ダミアン神父が 49 歳で亡くなる。

5 月, ロバート・ルイス・ステューブソンがセツルメントを訪問する。

カリヒ病院がハンセン病治療のために開院する。

1895 年

1 月, カラウパパの最後の先住民が退去する。居住地（セツルメント）は, 次第に半島のカラウパパ側に集中する。

サクレッド・ハートの 4 人の修道士が, 11 月 30 日に, ボードウィンホームの少年たちの世話を手助けするためにカラワオに到着する。

1902 年

ドクター・ウィリアム・J. グッドフューとジョン D. マックベイは, セツルメントの研修医と管理者の地位に就任する。彼らは, 1925 年後半に退職するまで 23 年間, それらの地位について。

1905 年

合衆国議会は, カラワオの病院と研究所のために 10 万ドル, そして毎年の維持費として 5 万ドルを提供する法案を通過させた。これは, 議会によって認められた特別の疾患に関する調査のための最初の病院である。

1907 年

ジャック・ロンドンと彼の妻チャーミアンがセツルメントを訪問する。彼らはこの訪問により刺激を与えられ, この経験について書いた。

1909 年

カラワオの合衆国レプロシー・インベスティゲイション・ステーションが, ドクターワルター・ブリンクカーホフを初代所長として開設される。

1913 年

合衆国レプロシー・インベスティゲイション・ステーションが閉鎖する。短い期間に, 9 名の患者を集めたにとどまる。調査は代わりにカリヒ病院で実施される。

1918 年

8 月 9 日, マザーマリアンヌが 80 歳で亡くなった。カラウパパで 30 年間仕え

た。

1920 年代

ジェームス・T. マクドナルド博士とアーサー・ディーン博士は、ハンセン病の治療として大風子油のエチルエステルの開発の先駆者である。

彼らは、世界中から彼らの調合を依頼された。初期成果は患者を勇気づけ、多くの患者はカリヒ病院から退院した。その治療に対する信頼は、10 年が経過する頃までには薄れる。

1931 年

3 月 26 日、ブラザー・ダットンが、87 歳で亡くなる。彼は、1930 年に医学的理由でカラワオを去っている。

病院局と居住地（セツルメント）は、ハリー・クルーゲルの指示に基づき、7 月 1 日に保健局からハンセン病計画のコントロールを引き継ぐ。カラウパパに関する調査が行われ、地方議会が近代的な病院の建設を認可し、居住地（セツルメント）の残りは大幅に再構築される。

1932 年

ボールドウィン・ホームは、カラワオからカラウパパに移動される。これは、カラワオでの居住地（セツルメント）の公式の終了を示す。

1936 年

ダミアンの遺体が掘り起こされ、1 月 27 日にホノルルに運ばれる。それで 1 週間、威厳を持って横たえられる。2 月 3 日、ダミアンの遺体はベルギーに向け出航し、5 月 3 日にベルギーに到着する。

1946 年

病院局と居住地（セツルメント）は、カラウパパでのスルフォン系抗生物質の使用を認可する。スルフォン治療は 6 人の患者で始まる。その薬は一夜で変化を作り出したように思われる。

1949 年

ハワイ準州前知事ローレンス・M. ジュドが、カラウパパの管理者になる。彼は、患者と非患者との間のたくさんの物理的な障壁（例えばフェンス）に、文字通り涙を流す。

1949 年

パールシティに位置するハレモハルは、ホノルルに基盤を有するハンセン病治療センターとして、カリヒ病院に取って代わる。ハレモハルで強調されたことは、単なる養護ケアというよりはリハビリテーションである。

保健局はハンセン病計画の行政を引き継ぐ。立法府はレプロシーに代えてハンセン病という言葉が使用されるべきと宣言する。

1955 年

2 月、ダミアン神父のケースが、ローマカトリック教会により正式に紹介される。そして最初のステップが彼の列福に向かってなされる。

1968 年

ドクタートーマス・ヒッチの主導に基づき、ハンセン病に関連するハワイの政策を研究するために、市民の委員会が設立される。

1969 年

ハワイの一世紀前の隔離法が廃止される。立法府は、市民が、元の名前でその病気を受け入れるように教育するために、集中的な努力がなされるべきであるという考えに基づき、ハンセン病よりもレプロシーという言葉の使用を指示する。

すべての新しい症例は、完全に外来患者として扱われる。

ダミアン神父の英雄的な行動は、バチカンによって、聖人として列聖へ向かう最初の大きなステップとして承認される。

4 月 15 日、彼の死後ちょうど 80 年、ダミアンの像は首都の塑像ホールで公開される。同一の塑像はハワイ州の州都の玄関に置かれている。

1973 年

“カラウパパの保護のための市民たち”は、カラウパパの歴史的な保護計画を促進するために形成された。

パッシー・ミンク下院議員は、議会にカラウパパ国立歴史公園を創設するための法案、HR 1 2 0 1 2 を提出した。

1 9 7 6 年

議会は、この地域を国立公園システムの一部とすることの実現可能性と望ま

しさを研究するため、カラウパパ国立歴史公園諮問委員会を設立した。

1977 年

ダミアン神父は、ローマカトリック教会から尊者と宣言される。

1980 年

カーター大統領は、カラウパパ国立歴史公園を設立するための一般法律 96-565 に署名する。

1981 年

州立法府は再び、“レプロシー”よりも“ハンセン病”が、ハワイにおける公式の用語であるべきと宣言する。この行動は、レプロシーという言葉の使用が全般的に受け入れられない“レパー”という言葉の使用に必然的に導き、そしてこの病気となお結びついているスティグマを永続させるという、患者による感情に基づいている。

(訪問者情報)

カラウパパは、ハワイ州保健局と国立歴史公園局により共同管理されている。成立している多数の古い法律を維持する医学的な理由はないけれども、人々が許可なしに居住地（セツルメント）に立ち入ることを禁じ、そして訪問者の年齢を 16 歳以上に制限する州法が効力を有していることを指摘しなければならない。

居住地（セツルメント）に入るためには、訪問者は、あらかじめ保健局から許可を得なければならない。これは住民によって所有され運営されている二つの旅行会社の一つを通じて行うことが可能である。ガイド付きの旅行は、荒い道路の旅行を含む。カラウパパへのこれまでの航空運賃と旅行費用についてもっと詳しい情報が必要な場合には、ダミアンツアーかイケのシーニックツアー、C/O Kalupapa Settlement, kalaupapa, Hawaii, 96742.

キャンピング、レストランあるいはストアなどの公共施設はない。一泊する滞在は、住民の招待者に限定されている。もしさらに情報が必要であれば、カラウパパ国立歴史公園、カラウパパ、ハワイ、96742 に連絡を。

公園へのアクセスは、全く地理的に限定されている。モロカイ島の2000フィートの崖の下のノースショアに位置しているので、カラウパパとモロカイ島のその他の土地とをつなぐ道はない。コミュニティへのすべての供給は、通勤者エアーコムーターの一つの小さな飛行機か、ミュールの背に乗ってパリトレイルをおりるか、あるいは7月か9月に来る1年に2回の荷船の一つで運び込むしかない。

セツルメントへ降りる道をハイキングするには、なれないハイカーにとってはおよそ1時間から1時間半が掛かり、登って帰るには1時間半から2時間が掛かる。

セツルメントを訪れる時間のない人々にとっては、半島のすばらしい景色は、パラアウ州立公園で可能である。その高みで展示している国立公園局は、カラウパパやその歴史についての重要な事実を提供している。

(裏面)

## 資源

ハワイ語の地名であるカラウパパは、おそらく“平たい葉”というのが最もよい解釈である。その半島は、実際、幅約2.25マイルの比較的平たい溶岩の葉である。カラウパパの住民から2,000フィートの崖によって“トップサイド”と呼ばれている場所から張り出している。その半島は、その源がカウハコ・クレーターでありその周縁が海拔約400フィートである、小さな火山によって形成された。それはアイスランドの盾状火山の代表的な例を表している。

モロカイ島の中北部海岸に位置するカラウパパ国立歴史公園は、国立自然ランドマークである壮大な北海岸の断崖の一部を含む。断崖は、地質学的意義のゆえにランドマークステータス的に重要であり、島の東の端のほとんどを作り上げている溶岩の膨大な層をむき出しにしている。その公園の東まで、それらは3,000フィート以上、海からそびえ立っているのが見える。

公園の公式な境界は、半島それ自体、ニホア（カラウパパの西と結合している伝統的な土地）、そして東モロカイの元々の盾状火山を深く浸食する3つの狭い溪谷を含む。これら3つの溪谷、ワイコル、ワイアレイア及びワイハナウ



は、3つの側面が1,600〜3,000 フィートの断崖に隣接している。

海岸線から4分の1マイルまでの沖合、パルアウからワイハナウへの断崖のトップに沿った細長い土地、パラアウ州立公園の一部も含む。トータルで約10,726 エーカーは、この境界内に含まれる。これは8,726 エーカーの土地と約2,000 エーカーの沖合の部分を含む。

公園のより離れた区域のいくつかは、さまざまな絶滅寸前の固有のハワイの植物や動物の希少な生息場所を含む。これらの区域は、最も湿った溪谷を通り抜けた半島の乾燥した最北端からプウアアリイ区域の上部の熱帯雨林まで及ぶ。加えて、その風景のいたるところにある石の構造物や地物は、ヨーロッパ接触前から19世紀前半における初期の歴史的時代までの占領時代を象徴している。

多数の石壁、段々畑、植林及び石の杭のようなその他の農業的地物が存在する。ハウスサイト、生活区域、宗教的建築物あるいは寺院も存在する。考古学的地物が破壊されている場所を除き、考古学的資源が欠けていると考えられる地区はない。今日存在している考古学的資源の本当の数とタイプ、900年から1,000年にわたる占有され、公園内で使用された可能性、そして資源の優れた保存状態によって、カラウパパ国立歴史公園をハワイにおける最も豊かで最も価値のある考古学的保存地域になっている。

#### (歴史的重要性)

ハワイにおけるハンセン病の歴史は、家族から引き離されしばしば“生きながらの死”と言われた場所へ立ち去ったおよそ8,000人の人々の物語である。

これらの人々が居住地（セツルメント）に送られた当時、彼らが、将来の世代が小さい島で起きたことを気に掛けるであろうと考えていたかは疑わしい。しかし、次第に、人々は、それらの出来事から学ぶことが多いことや彼ら自身でその人生を作ってきた人々を気に掛け、理解するようになっている。

カラウパパ国立歴史公園の設立は、国民と世界へこの歴史の重要性を公に認識させることである。この公園は、病気だけでなく人に対する人の残酷さを克服する人間の肉体的・精神的な能力へのモニュメントとして存在する。加えて、

ハワイは、地理的に狭いが文化的には多様な地域における、約 150 年という期間内でのハンセン病の流行あるいは特有なコースを解明する貴重な機会を提供する。

ハンセン病治療へのハワイの貢献は、医学的にも社会的にも意義があり、ハワイにおけるこの病気の歴史は、数世紀の間、恐怖と誤解に包まれてきた病気の現実について、世界を教育する強力な手段を与える。

ハワイにおけるハンセン病の起源は、1830年代にハワイ人の間で報告された、いくつかの信頼できる事例に遡ることができる。最も広まっている理論は、ハンセン病はサトウキビプランテーションで働くために呼び寄せられた中国人労働者によってハワイに持ち込まれたというものであった。ハンセン病は、マイパケ（中国人の病気）とマイアリ（チーフの病気）という二つの名前で知られるようになった。

ハンセン病は、ハメハメハ 5 世が“ハンセン病の拡大を防止する法律”に署名した1865年1月3日にハワイ王朝の公的な関心事になった。この法律は、もし“野放しで”放置したら、病気が広がるかもしれないハンセン病を患った人々を隔離する目的で、土地を分離することを認めた。1865年11月、カリヒ・レプロシーホスピがホノルルの近くに開設された。疑われるケースがここで治療を受け、より重症で治療ができないケースのみがハンセン病セツルメントがカラワオに設立されたモロカイ島に送られた。最初の患者のグループは、1866年1月6日、居住地（セツルメント）に送られた。

#### （5つの時代）

ハワイとカラウパパ居住地（セツルメント）におけるハンセン病の歴史は、5つの時期に分けられる。

第1期は、およそ50年（1866年－1910年）に及ぶ。病気を患った人々を身を隠させた恐怖と絶望によって特徴づけられた。患者は、発病後も長い間、コミュニティにとどまり、ケースは彼らがセツルメントに到着する時までにより病状は進行していた。2、3の例外はあったが、寿命は短かった。“

ファッドキュア”の時代であり、患者の短い寿命とスタッフの長い期間の介護は患者よりも労働者に焦点が向けられた時代であった。

第2期（1910年－1929年）は進歩の時代であった。大まかに20年かからなり、ハンセン病に対する科学的な知識と居住地（セツルメント）での医学的状況の大幅な改善において大きな一歩を経験した。病気の治療薬としての大風子油の開発と幅広い使用は、その状況に希望の要素をもたらした。病気が初期の段階に人々は、進んで治療に取り組んだ。早い診断と治療は、寿命の長期化をもたらした。この時代からの何人かの患者は70、80歳代及び90歳まで生きた。病気に対する姿勢も変化していたが、なお長い道のりがあった。

第3期（1930年－1945年）は、システム、行政及び態度に変化が見られた。大きな変化の時代であったが、また大風子油への信頼が減少し、再びハンセン病は不治とみなされたため、患者によっては極めて絶望的な時代でもあった。

第4期（1946年－1969年）は、患者の隔離の必要性に関し繰り返される論争を導く偉大な医学的進歩を経験した。1940年代の治療薬としてのスルフォン剤の導入は1969年に古い隔離政策の事実上の廃棄に導いた。スルフォン剤は、“奇跡の薬”と呼ばれ、患者は、彼らは“夜明け”の変化を感じるとコメントした。1940年代の終わりに、患者と非患者との間の物理的な壁が取り除かれ、多くのエンタテナーが居住地（セツルメント）を訪問した。シャーリー・テンプル、ジョン・ワイネ、トラップファミリーシンガー、レッド・スケルトン、エドワードC.ロビンソン、エドガー・ベルゲン及びチャーリー・マクキャシーなどが含まれた。スルフォン剤により元気を取り戻したことが、居住地（セツルメント）での活動や運動を増大させた。この期間に生きた患者たちは運がよく、これらの抗生物質により、1950年代頃までに恩恵を受けるのに十分であった。患者の寿命は、一般的な人々のそれを正確に反映しはじめた。

第5期（1969年－現在）は、カラウパパにとどまることを選択した以前の時代のものの代表者らを除いて、外来患者が普通となった時代である。新しい病気の症例の増加をもたらした移民のパターンのような問題に悩まされた時

代である。しかしながら、それらの問題を解決する知識を持っている時代でもある。それらから学ぶべきことが沢山あることが分かったため、多くの注目が、以前の4つの時代に集中される時代である。

第5期は、過去の記憶や教訓を保存することに尽力している、国立歴史公園へのカラウパパの進化を目のあたりにしている。